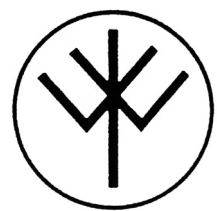




建学の精神

敬和学園は創立以来、「神を敬い、人に仕える人間」の育成を目指しています。これは、日本基督教団の要請を受けて新潟に赴任した太田俊雄が、丸一年かけた開校準備のちに命名した校名のもとになる精神です。

教育の柱として「小人数教育」「個人の尊重」「キリスト教に基づく人格教育」「国際的視野に立つ教育」「労作教育・ボランティア教育」「寮教育(高校)」を大切にしています。これらの教育を総合的にこなうことによって、一人ひとり確実に人間的成長を遂げます。同時に国際社会の主体的一員にふさわしい人格を身につけていきます。知識偏重教育(頭だけの教育)に逆らい、全人教育(特に心の教育)に力を注いでいます。



敬和学園 校章・マーク
円の中の図形は、「敬」と「和」のローマ字の頭文字 K と W を用い、素朴で、力強い効果を持たせています。

学校法人 敬和学園

〒957-8585 新潟県新発田市富塚1270

TEL : 0254-26-3636 FAX : 0254-26-3646



創立

新潟にキリスト教主義の学校をつくることは、長年の念願でしたが、なかなかありませんでした。敬和学園は、1968年(昭和43)こうした歴史を背負い、新潟の地に唯一の日本基督教団立の学校として開校されました。

その萌芽は、1952年(昭和27)に着任したジョン・A・モス宣教師にあります。モスを中心に東中通教会、新潟教会が合同で活動するようになり、そこで何らかのキリスト教主義学校をつくることが考え始められたのです。モスは〈J3〉と呼ばれる内の一人でした。〈J3〉というのは、日本伝道のために3年間奉仕するという意味です。戦後間もなく、アメリカの若い青年宣教師が、こうした志を持ってたくさんやって来ました。モスは東京では、〈SCF〉(学生キリスト教友愛会)の主事になって、青年の指導にあたりました。

1963年(昭和38)新潟朝拝会が始められるのを記念して、大阪女学院院長の西村次郎を迎えて、学校設立の祈りが捧げられました。これをきっかけに、同年11月に新潟キリスト教主義高等学校設立準備委員会(以下、準備委員会)が発足しました。

折しも、教団と深い関連を持つアメリカ・カナダのキリスト教8教派の合同委員会〈IBC〉(Interboard Committee on Christian Work in Japan)と〈IBC関係学校協議会〉(青山学院、明治学院、同志社、関西学院、東北学院など57法人)が、全国を視野に入れて学校設立への資金援助の用意があると発表。新潟市の開港百年記念事業の一貫として、誘致を受けることもかありませんでした。

当初、校長には大阪女学院院長の西村次郎、副校長にはジョン・モスが推薦されますが、西村が固辞、日本聖書神学校教授の太田俊雄が推挙されました。ここに、長らく祈りの中で求められた学校が、敬和学園として開校しました。

創立の背景と歴史

1869年(明治2)再来日した際に、ブラウン塾で横浜バンドを育んだS・R・ブラウンは、新潟英語学校に赴任。フェリス女学院の創設者メアリー・キダーも同行しました。しかし、英語以外に聖書を教えたということで、8カ月で解雇され、横浜に戻りました。

正式な宣教師としては、医師でもあったセオバルド・A・バームが1875年(明治8)新潟にやって来て、8年5月にわたって医療宣教を行いました。これは「外国人居留が許されている五つの港で、宣教師がいないのは新潟だけだ」というヘボン博士の助言によります。ここで育った押川方義と吉田亀太郎は1880年(明治13)新潟大火をきっかけにして仙台に移っていましたが、バームの跡を継ぎ、新潟第一基督教会(のちの日本基督教団新潟教会)が創立され、初代牧師に日本女子大学を興した成瀬仁蔵が就きました。

閉校になっていた新潟英学校は、自由民権運動の中心として活躍した加藤勝弥を初代館長として北越学館の校舎に用いられています。1888年(明治21)には新潟の幹旋で内村鑑三が教頭(当時の校長職)に就きました。しかし、時代は欧化主義から国粹主義に急転換していき、1893年(明治26)両校とも短命でその幕を閉じました。

また梅花女子学校校長を経て新潟教会に着任した長田時行が、聖友女学校をつくりますが10年で閉校、戦後になってからは澤田義方が中心となって一貫教育を目指した恵光学園を計画しますが、実現したのは幼稚園のみでした。

このような背景を持つ新潟で、〈IBC〉や〈IBC関係学校協議会〉の支援によって、日本基督教団立の学校としては唯一の敬和学園が開校しました。校名は、「神を愛し、隣人を愛する」(マルコによる福音書12章)に由来し、太田によって「神を敬い、隣人と和する」と日本的文脈に置き換えられています。また、高等学校から始まりましたが、学園構想を抱く太田は、初めから〈学園〉と名づけました。

初代校長 太田俊雄は、1911年(明治44)岡山で生まれました。父は菅生村三田(現・倉敷市)に移り、石切山の切り出しを生業とします。7人兄弟の長男だった太田は、この過酷な肉体労働に鍛えられました。父の強い反対に遭いましたが、校長と担任の説得で私立中学岡山賛(私立中学関谷賛の分校)に進学。太田の資質は、英語教師の柴田俊太郎との出会いの中で開花します。働きながら学んだ学生時代に、牛込福音教会(のちの牛込矢来町教会)で受洗し、旧制古川高女、青森中学、水口中学、八尾中学、燈影女学院で英語を教えました。アメリカ留学を経て、日本聖書神学校で宗教教育の教授職を14年間務めた後に、敬和学園高校の初代校長となりました。

太田は創立当初から「労作」を大切にしました。祈って働くことで人間形成が実現されることは創立以来の伝統であり、大学ではボランティアとして受け継がれています。

1991年(平成3)には、新発田市と聖籠町ならびに新潟県の多大な援助を受けて、両市町の境に敬和学園大学を創立しました。当初は人文学部の英語英米文学科と国際文化学科の二学科制で出発しました。2004年(平成16)には、改組転換して、英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科の三学科体制に移行しました。



創立者 太田俊雄(1911～1988年)
労働を大事にし、人間形成には、祈って働くことが重要と教えました。

